

日本における脳卒中の生涯リスクと高血圧の影響： 広島・長崎における成人健康調査からの報告[§]

Lifetime Risk of Stroke and Impact of Hypertension: Estimates from the Adult Health Study in Hiroshima and Nagasaki

高橋郁乃 Susan M Geyer 西 信雄 大下智彦 高橋哲也 赤星正純
藤原佐枝子 児玉和紀 松本昌泰

要 約

血圧群ごとの脳卒中の生涯リスク(LTR)に関してはほとんど報告がない。本研究対象者は、放射線影響研究所において1958年から2年ごとの健診で追跡中の成人健康調査受診者を含む。55歳以前に脳卒中の診断を受けていない7,847人における血圧レベルごとのLTRを、競合リスクを考慮する累積発生率法にて算出した。2003年までに、868例(女性512人[58.9%])の脳卒中が発生し、虚血性脳卒中は542例(62.4%)であった。血圧は男女ともに明らかな脳卒中の危険因子であり、血圧群間で脳卒中の累積リスクに有意差を認めた。すなわち、全脳卒中のLTRは、正常血圧群(収縮期血圧[SBP]/拡張期血圧[DBP] <120/80 mmHg)－前高血圧群(120–139/80–89 mmHg)－ステージ1高血圧群(140–159/90–99 mmHg)－ステージ2高血圧群(SBP/DBP >160/100 mmHg)で、男性13.8–16.9–25.8–25.8%、女性16.0–19.9–24.0–30.5%であった(男女とも血圧群間 $P < 0.001$)。正常血圧群と前高血圧群では脳卒中リスクに有意差を認めなかった($P = 0.16$)。

5人に1人の日本人原爆被爆者が、観察開始時の55歳以降、生涯のうちに脳卒中を経験していた。ベースライン年齢が45、55、65、75歳のどの年齢においても高血圧(>140/90 mmHg)であった対象者では脳卒中の長期リスクが上昇した。

[§] 本報告書は *Hypertens Res* 34:649–54, 2011 に掲載されたものであり、その正文は同掲載論文のテキスト(英文)である。この日本語要約は、日本の読者の便宜のために放影研が出版社(Nature Publishing Group)の許可を得て作成したが、本報告書を引用し、またはその他の方法で使用するときは、同掲載論文のテキスト(英文)によるべきである。